

平成27年度 第4回

希望郷いわてモニターアンケート
食の安全安心及び食育に関する意識調査

【報告書】

岩手県環境生活部県民くらしの安全課

I アンケート調査の概要

1 調査課題名
食の安全安心及び食育に関する意識調査

2 調査の目的

岩手県食の安全安心推進計画及び岩手県食育推進計画の推進を着実に図り、本県の食の安全安心の確保及び食育の推進につなげていくため、計画に基づく施策や取組の参考とするものである。

3 調査期間
平成28年1月28日（木）から2月11日（木）まで

4 調査方法
調査紙郵送及びインターネット

5 調査対象
平成27年度希望郷いわてモニター 295名

6 回答者数
239名

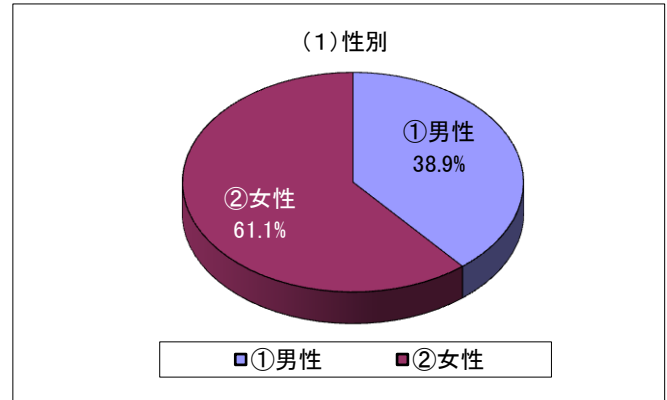
7 回答率
81%

Ⅱ アンケート集計結果

問1 あなたの性別、年齢、職業区分についてお聞かせください。

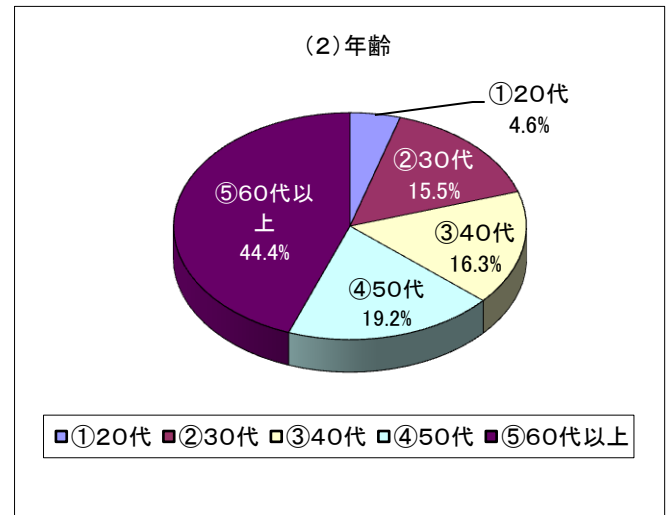
(1)性別

①男性	93
②女性	146
計	239



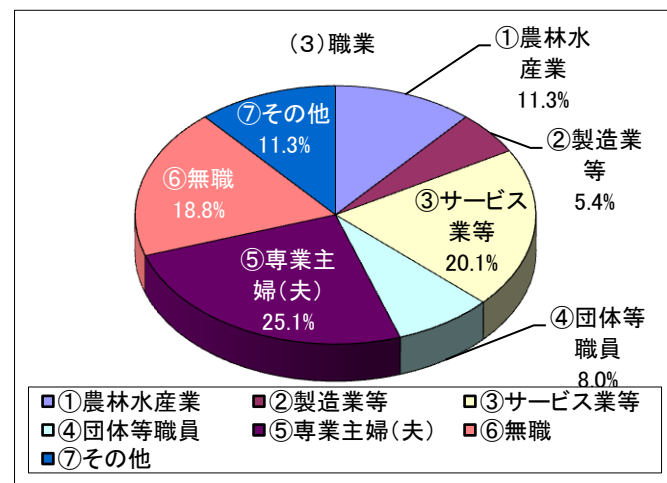
(2)年齢

	合計	男性	女性
①20代	11	3	8
②30代	37	9	28
③40代	39	8	31
④50代	46	21	25
⑤60代以上	106	52	54
計	239	93	146



(3)職業

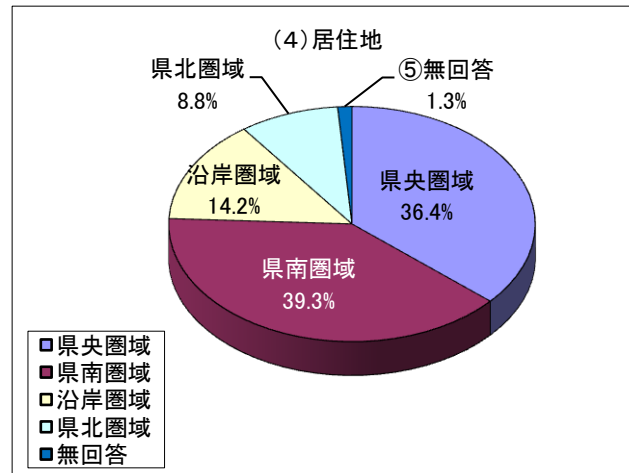
	合計	男性	女性
①農林水産業	27	14	13
②製造業等	13	10	3
③サービス業等	48	18	30
④団体等職員	19	9	10
⑤専業主婦(夫)	60	1	59
⑥無職	45	29	16
⑦その他	27	12	15
計	239	93	146



※「その他」の内訳: アルバイト、パート、建設業、情報通信業、福祉関係 他

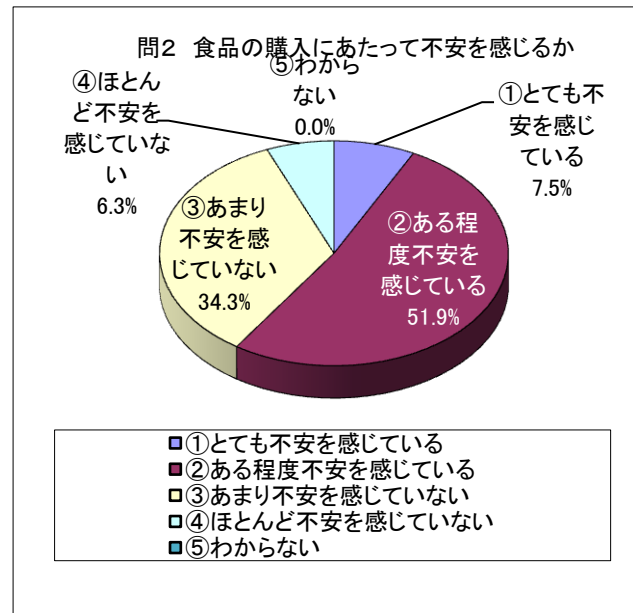
(4)居住地

①県央圏域	87
②県南圏域	94
③沿岸圏域	34
④県北圏域	21
無回答	3
計	239



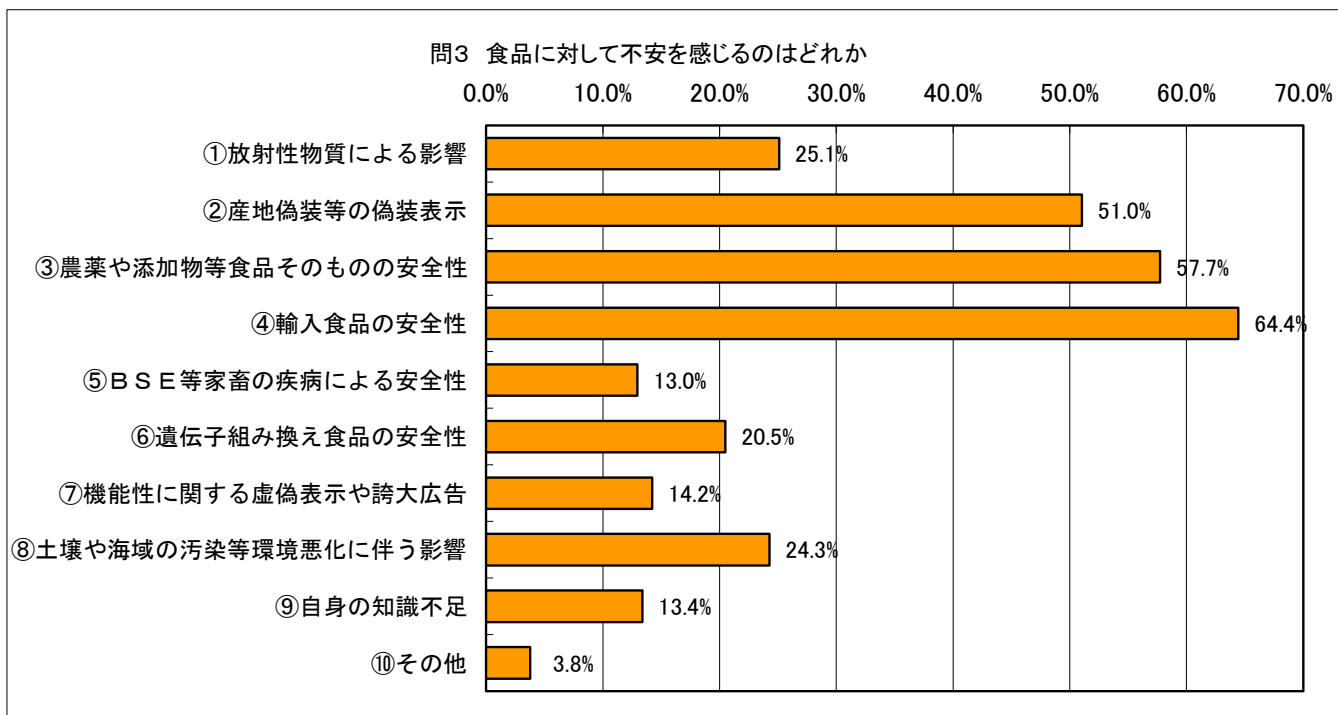
問2 あなたは、普段、食品の購入に当たって不安を感じていますか。(あてはまるものを1つ選んでください。)

①とても不安を感じている	18
②ある程度不安を感じている	124
③あまり不安を感じていない	82
④ほとんど不安を感じていない	15
⑤わからない	0
計	239



食品購入に当たって不安を感じている人は59.4%を占めており、不安を感じない人の40.6%を上回っている。また、前回(平成26年9月調査。以下同じ)の64.0%から減少している。

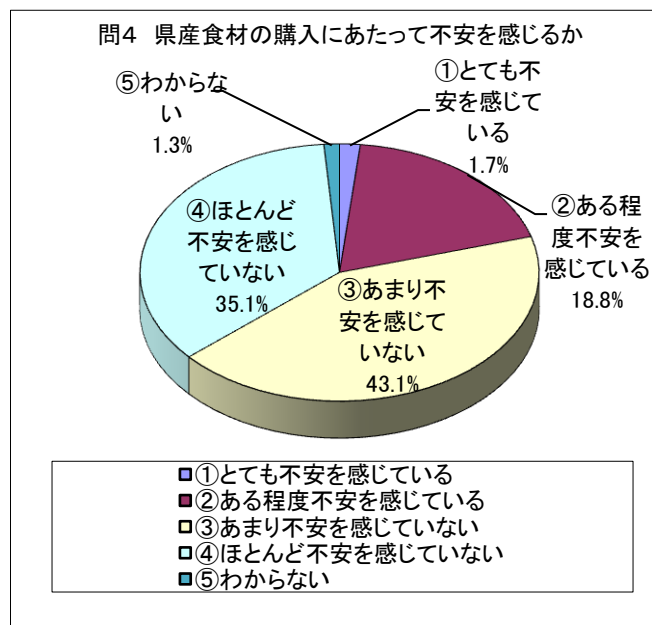
問3 あなたが食品に対して不安を感じているのは(又は不安を感じるとすれば)、次のうちどれですか。(あてはまるものを3つまで選んでください。)



不安を感じる理由は、前回調査と同様に④輸入食品の安全性(64.4%、前回75.6%)が最も多く、次いで③農薬や添加物等食品そのものの安全性(57.7%、前回55.6%)、②産地偽装等の偽装表示(51.0%、前回47.6%)の順となっている。
 なお、①放射性物質による影響は25.1%と、前回(36.4%)よりも減少している。

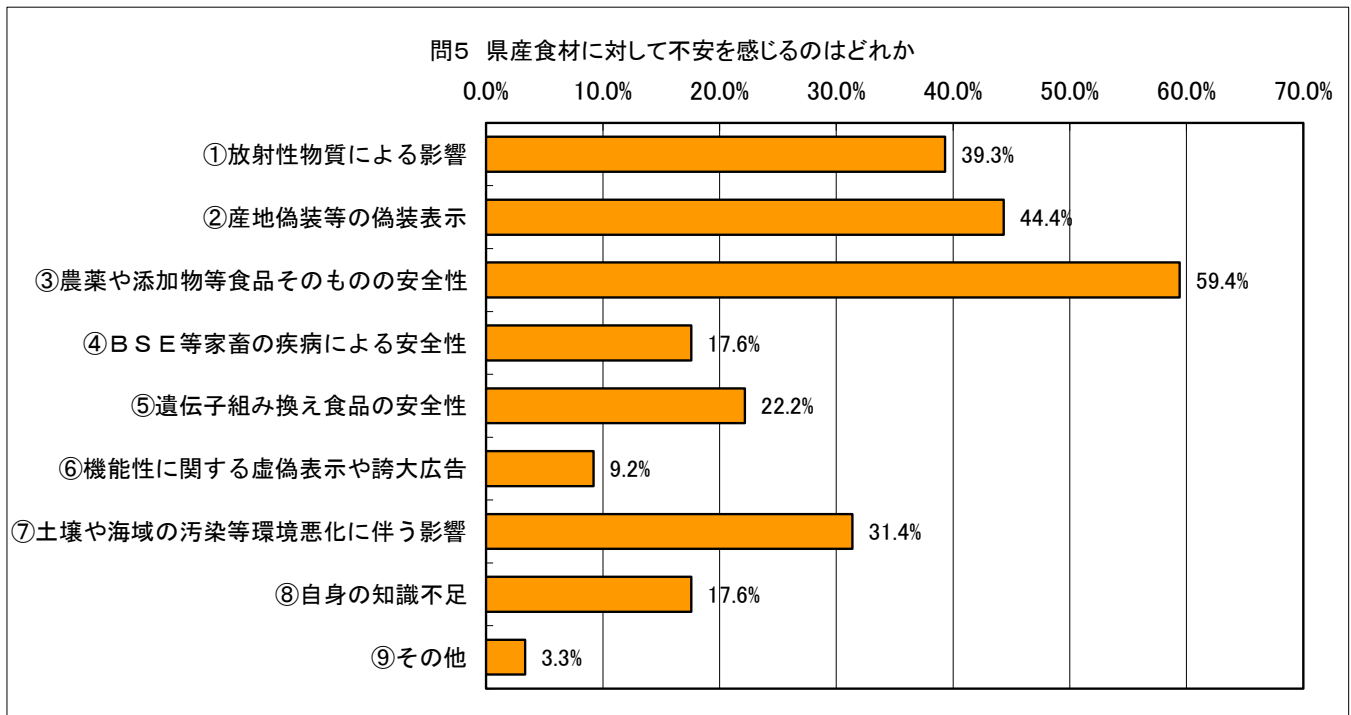
問4 あなたは、普段、県産食材の購入に当たって不安を感じていますか。(あてはまるものを1つ選んでください。)

①とても不安を感じている	4
②ある程度不安を感じている	45
③あまり不安を感じていない	103
④ほとんど不安を感じていない	84
⑤わからない	3
計	239



県産食材の購入に当たって不安を感じている人は20.5%となっており、不安を感じない人の78.2%を大幅に下回っている。(新規調査項目)

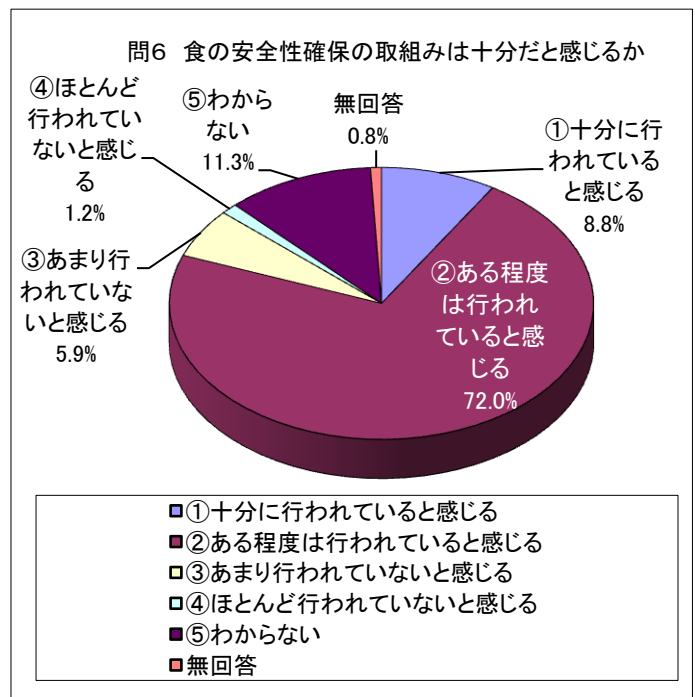
問5 あなたが県産食材に対して不安を感じているのは(又は不安を感じるとすれば)、次のうちどれですか。(あてはまるものを3つまで選んでください。)



県産食材の購入に不安を感じる理由は、③農薬や添加物等食品そのものの安全性(59.4%)が最も多く、次いで②産地偽装等の偽装表示(44.4%)、①放射性物質による影響(39.3%)の順となっている。(新規調査項目)

問6 あなたは、県内の食品関連事業者(農林水産物の生産者や食品を取り扱う事業者)の食の安全性確保の取組が、十分に行われていると感じていますか。(あてはまるものを1つ選んでください。)

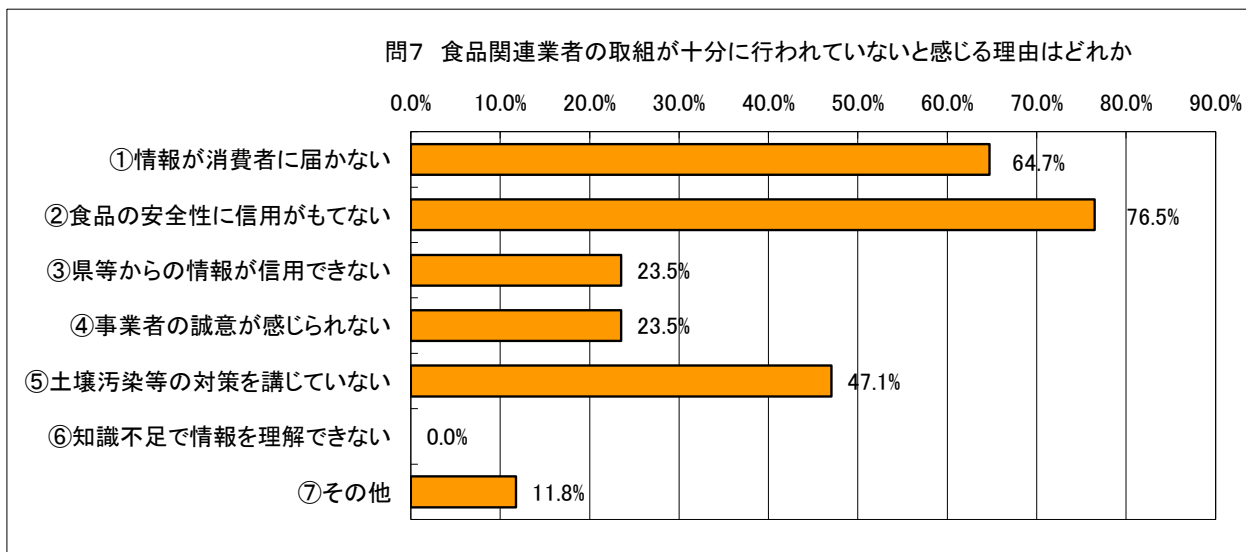
①十分に行われていると感じる	21
②ある程度は行われていると感じる	172
③あまり行われていないと感じる	14
④ほとんど行われていないと感じる	3
⑤わからない	27
無回答	2
計	239



安全性確保の取組みが行われていると感じる人の割合は、全体の約8割(80.8%)と、前回(78.8%)から増加しており、県内の食品関連事業者の取組については概ね理解されている結果となった。

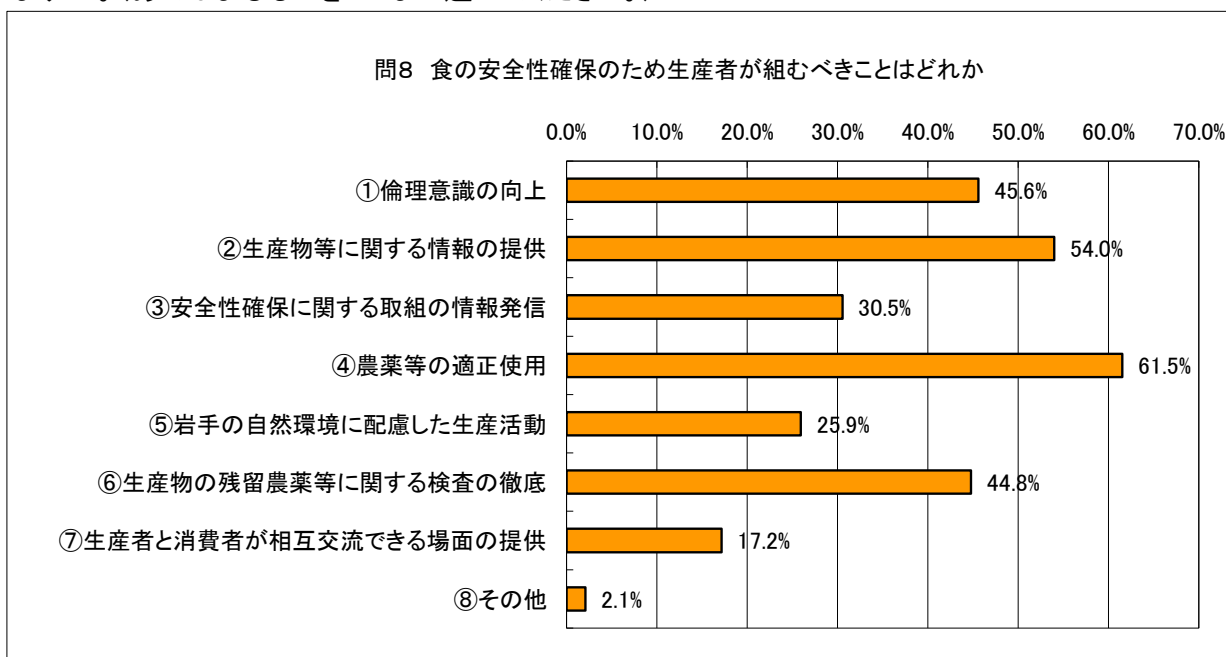
問7（問6で③又は④を選んだ方のみお答えください。）

あなたは、県内の食品関連事業者の取組が十分に行われていないと感じる理由は、次のうちどれですか。（あてはまるものを3つまで選んでください。）



安全性確保の取組が十分ではない理由は、前回調査と同様に②食品の安全性に信用がもてない(76.5%、前回78.4%)が最も多く、次いで①情報が消費者に届かない(64.7%、前回73.0%)、⑤土壌汚染等の対策を講じていない(47.1%、前回48.6%)の順になっている。

問8 あなたは、県内の生産者が、食の安全性確保のために特に取り組むべきことは、次のうちどれだと思いますか。（あてはまるものを3つまで選んでください。）

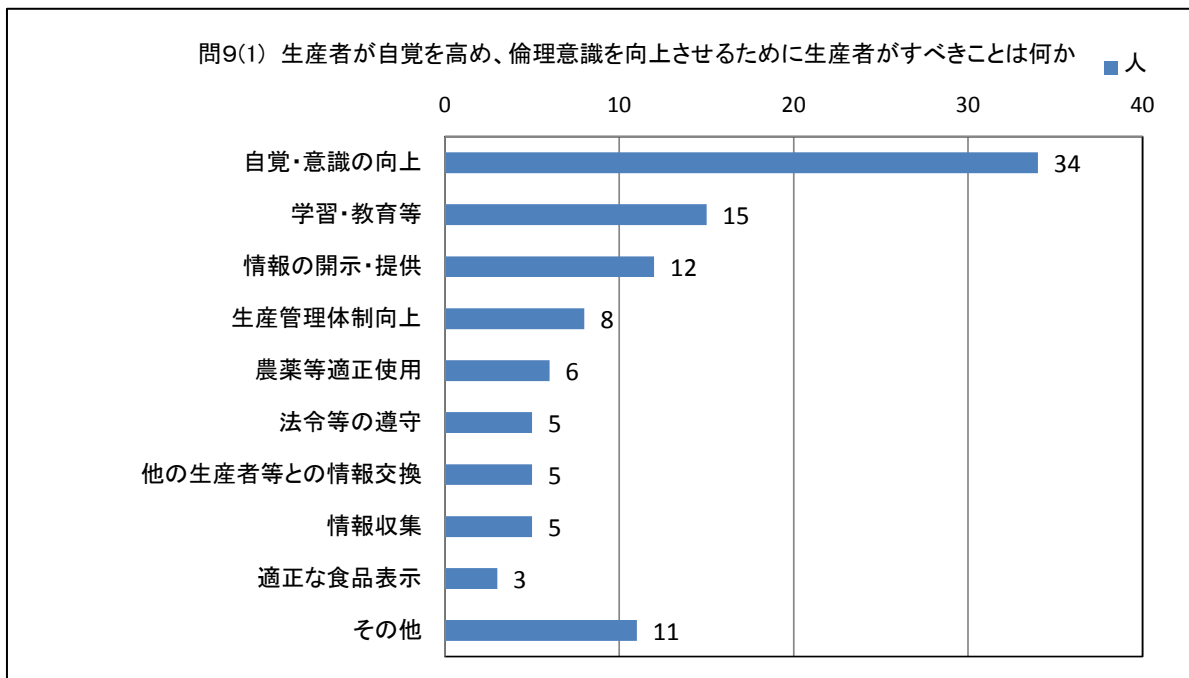


県民が求める生産者の取組は、④農薬等の適正使用(61.5%、前回56.4%)が最も多く、次いで②生産物等に関する情報の提供(54.0%、前回50.8%)、①倫理意識の向上(45.6%、前回46.0%)の順となっている。

問9 (問8で①(倫理意識の向上)を選んだ方のみお答えください。)

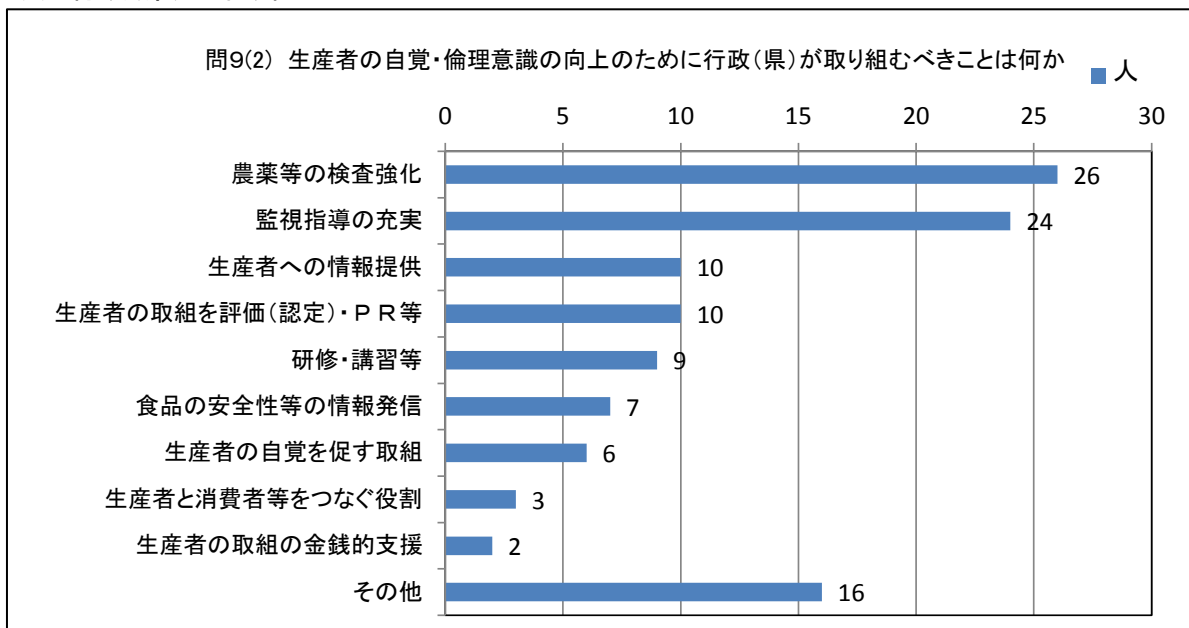
あなたは、生産者が自覚を高め、倫理意識を向上させるために必要なこと(具体的にすべきこと)及び行政(県)が取り組むべきことは、何だと思えますか。(自由記載)

(1) 生産者がすべきこと



※「その他」の主なもの: 衛生面の環境整備、市町村や農協の指導を受ける 等

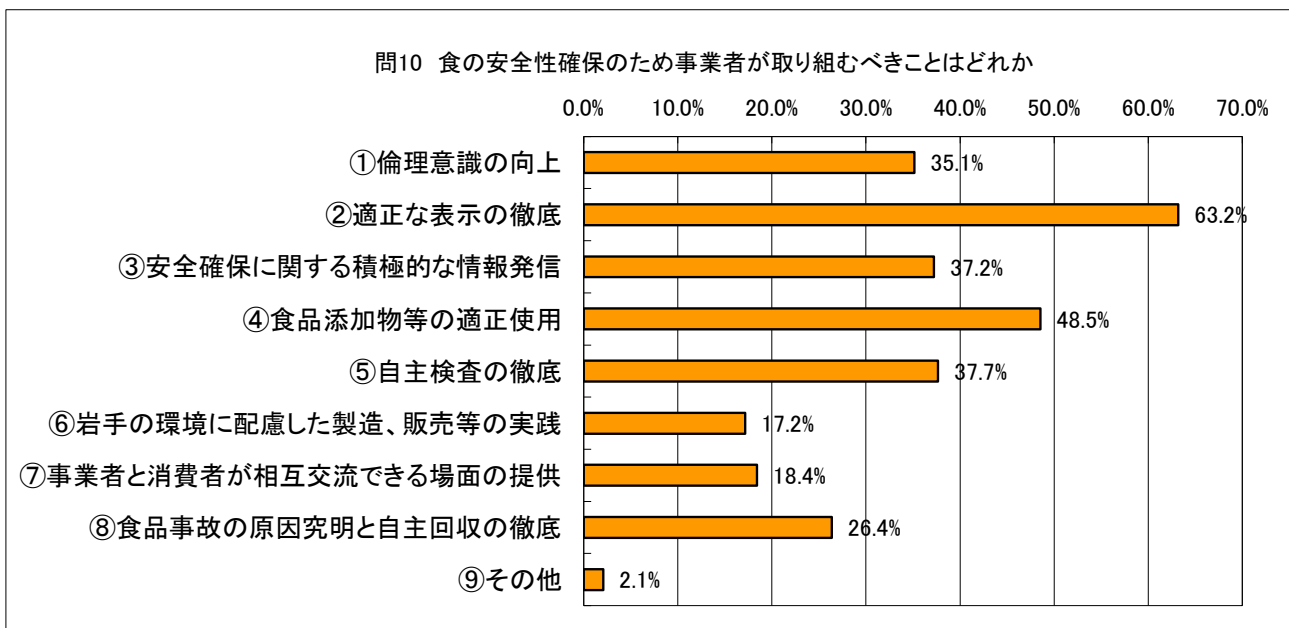
(2) 行政(県)が取り組むべきこと



※「その他」の主なもの: 定期的に生産者と顔を合わせる、生産物の見学会、天然添加物の開発、無農薬栽培研究指導、免許制として4年更新、新しい人材等の掘り起し 等

生産者が取り組むべきこととして「倫理意識の向上」を挙げた人が、このために必要と思うこと(自由記載)を分類すると、生産者がすべきこととしては、自覚・意識の向上に関するものが最も多く(34人)、行政が取り組むべきこととしては、農薬等の検査強化に関するもの(26人)、監視指導の充実に関するもの(24人)が多い結果となった。

問10 あなたは、食品の製造、販売等を行う事業者が食の安全性確保のために特に取り組むべきことは次のうちどれだと思いますか。(あてはまるものを3つまで選んでください。)



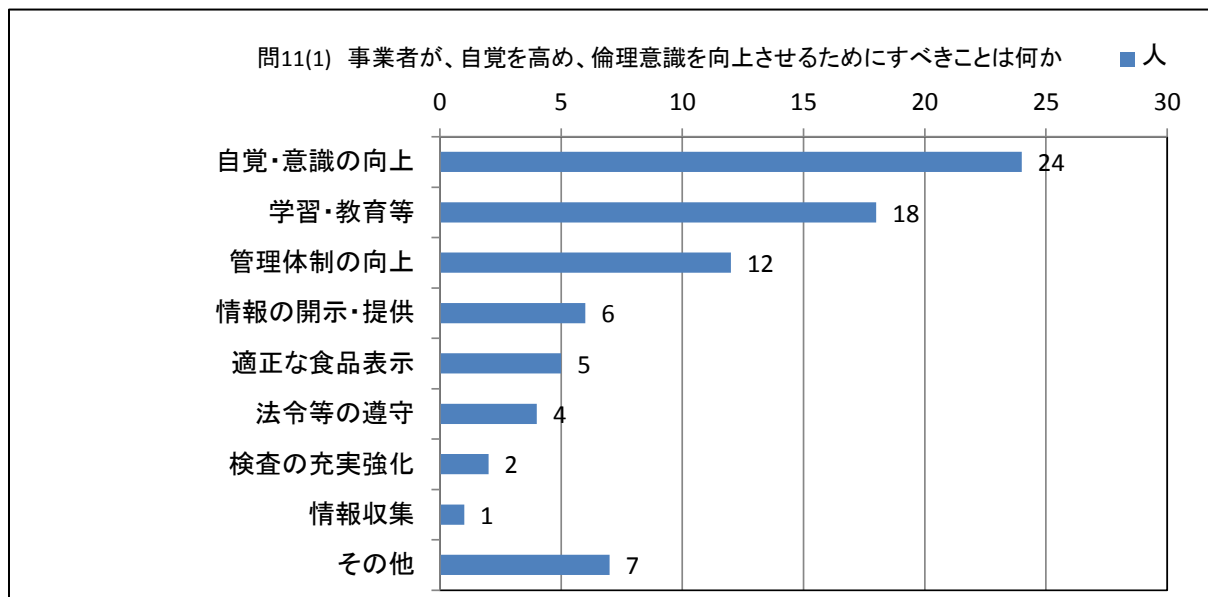
※「その他」の主なもの：廃棄物の適正処理、添加物・農薬不使用に挑戦 等

県民が求める事業者の取組は、②適正な表示の徹底(63.2%、前回35.6%)が最も多く、次いで④食品添加物等の適正使用(48.5%、前回46.8%)、⑤自主検査の徹底(37.7%、前回38.4%)の順となっている。

問11 (問10で①(倫理意識の向上)を選んだ方のみお答えください。)

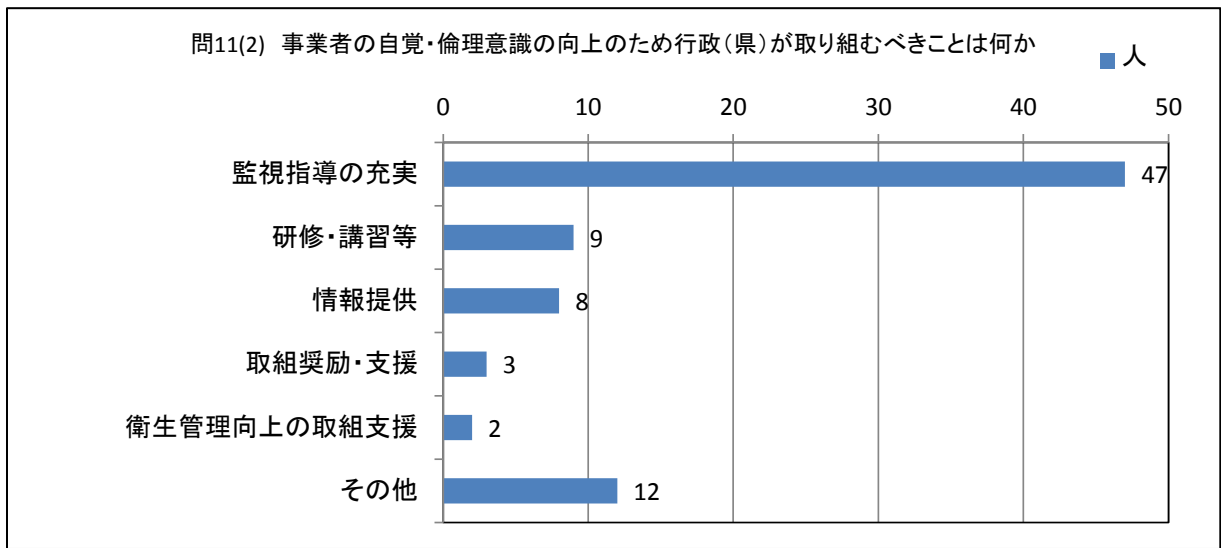
あなたは、製造、販売等の事業者が自覚を高め、倫理意識を向上させるために必要なこと(具体的にすべきこと)及び行政(県)が取り組むべきことは、何だと思いますか。(自由記載)

(1) 事業者がすべきこと



※「その他」の主なもの：購入者・生産者との交流、行政等の指導を受ける 等

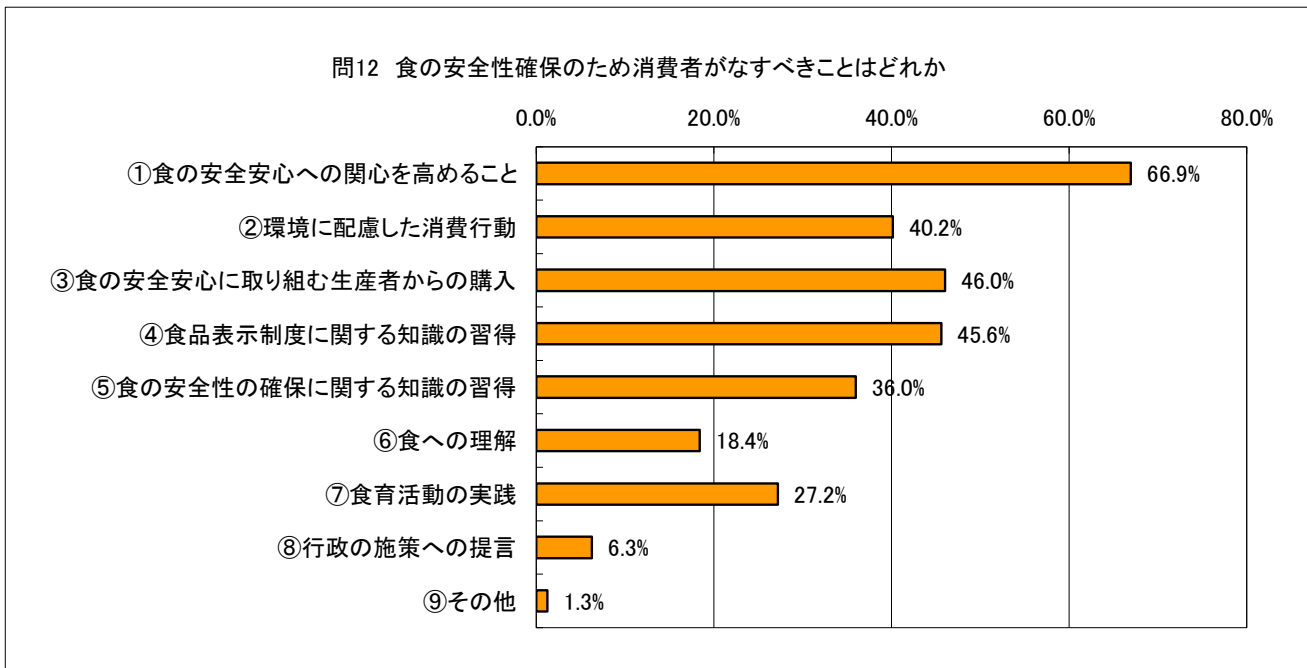
(2) 行政(県)が取り組むべきこと



※「その他」の主なもの: 実態調査、自ら安全なものを選ぶ、内部告発者保護と啓発活動 等

事業者が取り組むべきこととして「倫理意識の向上」を挙げた人が、このために必要と思うこと(自由記載)を分類すると、事業者がすべきこととしては、自覚・意識の向上に関すること(24人)、学習・教育等に関すること(18人)が多く、行政が取り組むべきこととしては、監視指導の充実に関すること(47人)が多い結果となった。

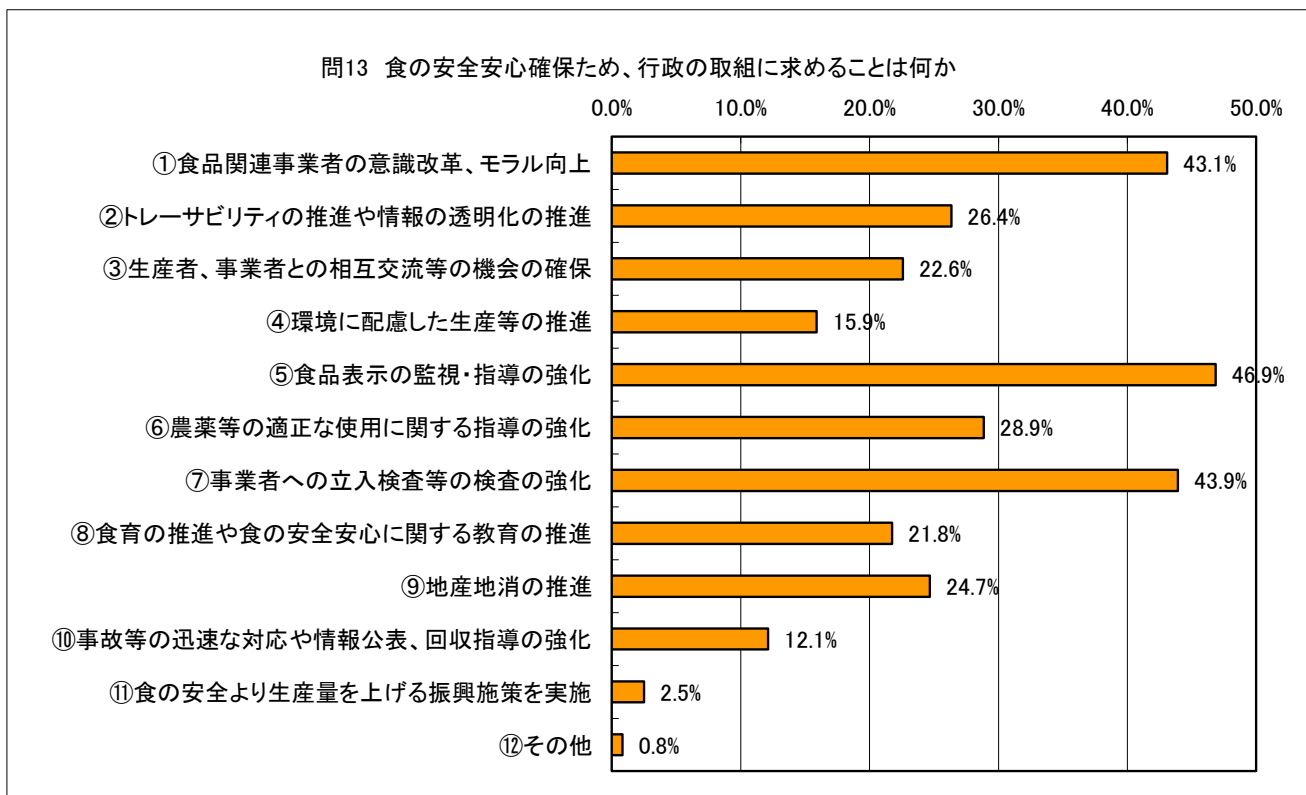
問12 あなたは、食の安全性の確保のため、消費者がなすべきことは次のうちどれだと思いますか。(あてはまるものを3つまで選んでください。)



※「その他」の主なもの: よく確認してから購入、安全安心が確保されるよう行政等が監視 等

消費者がなすべき取組としては、前回調査と同様に7割程度(66.9%)の人が①食の安全安心への関心を高めることを挙げており、次いで③食の安全安心に取り組む生産者からの購入(46.0%、前回49.6%)、④食品表示制度に関する知識の習得(45.6%、前回49.6%)の順となった。

問13 あなたは、食の安全安心の確保のため、行政の取組に求めることは何ですか。(あてはまるものを3つまで選んでください。)



行政の取組に求めることは、前回調査と同様に⑤食品表示の監視指導の強化(46.9%、前回50.0%)が最も多く、次いで⑦事業者への立入検査等の検査の強化(43.9%、前回39.2%)、①食品関連事業者の意識改革、モラルの向上(43.1%、前回38.4%)の順となっている。

問14 食の安全安心について、日頃感じていることがあればご自由にお書きください。

1	行政に要望したいことは、農業生産者として、本当に安全問題や環境に配慮した生産者への販売支援をお願いしたい。そうでなければ同調者がなかなか増えず、自らが孤立化してしまう。
2	輸入品が多すぎる。価格が安いほど信頼できない。
3	カレーチェーンやコンビニが廃棄委託した食品が売られていたということは許せません。行政や国の監視や指導を強化してほしい。私はできるだけ自給自足、地産地消に努めています。
4	廃棄食品の転売等が放送されているが県内はないのか。また、監視等が行なわれているか。
5	スーパー表示はウソだらけ。産直で生産者の顔を見て購入しています。
6	自然食品を選ぶ。
7	安全・安心は”当たり前”となってきた。それを支えているのが生産者、製造者、販売者である。そのため努力、投資が価格転嫁できにくい状況にあるので消費者に理解してもらえる施策を望みます。
8	事業者が法に違反することがないように望みたい。
9	使用期限の切れたものを使用するという。人の口に入るものなので、衛生管理等しっかりしてほしい。
10	残留農薬、放射性物質の検査は必須です。無理でも無農薬、有機栽培食品を増やすべき。今すぐは取り組む個人、法人を支援すべき。
11	外国産を買わず国内(県内)産を買うよう心掛けている。
12	県産の野菜等は安全安心と思っています。しかし、輸入品については不安があります。
13	以前、食品工場の現場にいましたが、指示書どおりになされていないことがあり不信感を持つようになりました。一人一人のモラル、自覚が大切だと思います。
14	信じがたい事件の発覚による不安。なぜ行政はそれを事前に見つけられなかったのか。
15	地産地消は本当に本当に進めていくべき事と思う。一方で、やはり値段が高くスーパーで買うのをためらう時がある。産直の生産者や顔が見えて安く購入することができる場所が増えた事は良い事だと感じます。
16	消費者側の意識向上の必要性。
17	輸入品、国内での期限切れ商品の流通など不安が募ります。食材は主に県内産を購入しています。
18	食品に表示されている字が小さすぎてわかりにくい。生鮮などは表示のないものもあり不安なこともあります。
19	生産地の偽造や食品に関するさまざまな偽装、賞味期限切れの売買製造年月日の偽装等々、全く改善されず偽装が再び多発して来ています。生産者・食品関連の加工業者、卸業者のモラルの向上が喫緊。国や県・市町村の監視や指導の強化を厳しく対応してほしいと思います。
20	規格外のものでも安心して口にすることができればいいと思うので、もっとそのような食品があってもいいのでは。
21	消費者側としては食品の表示を信用して購入しているのでそれを偽装されては何を信用して良いのかわからなくなる。
22	遺伝子組換についてもっと情報を公開してほしい。医学的分析も含む。
23	一人一人が関心を持ち、自分が食べている食品について考える事ができると良い。自給自足、地産地消、季節ごとの旬の素材を生かした料理。健康な体と心を作る食事など大切にしていきたい。
24	廃棄食品の横流しなど他人任せにしていると安全が脅かされかねない。安さだけでなく、安全を確かめて食品を求めるよう努めたい。業者には常に抜き打ち検査をするなど抜け道を作らない制度にすべきである。
25	生産材料の輸入が多く、価格も大きく左右されるため、つい安価なものと思う反面、厳選した高品質で安全安心なものをと注意しているがそれも正しいかどうか不安である。
26	岩手ではないと思いますが食品表示、日時、産地など偽装されたら私どもにはわからない事が不安です。
27	岩手県においては激しく違反している事業者は見当たらないと思いますが、人口密度等に関連して消費力の低下から、地域格差も生じて生産者への見返りが少ないという事は、色々な対策にもお金がかかり十分な対応に欠けるのでは。
28	生産地がどこか見ると外国産の物がどんどん多くなっている。タラコ、スジコなどの日本産のものがスーパーでは見当たらない。

29	食品添加物に対する認識があまりにもなさすぎると思います。国自体がもっと添加物規制をするべきだと思います。
30	加工食品に関して不安を感じる。
31	子ども達に安全な物を食べさせるには、子育て世代が食育に関心を持つことが重要である。
32	スーパーなどで、消費期限の記入されたシールが貼ってあるものを食べた時、味とか固さとかに違和感を覚えたりする品物があり、シールを貼り替えているのではと疑ってしまう事がある。
33	1.ダイエットは問題外 食習慣がなっていない人のすること。 2.化学農薬の研究→無害化と撤収 3.シカ対策
34	地産のものを購入するようにしています。
35	生産者、事業者、行政等に全てまかせるのではなく、自らの食は自ら責任をもって食する。
36	野菜が無駄に捨てられるような気がします。生産者が販売経路を見出せていません。もったいない。
37	廃棄物の横流し事件にはショックを受けた。金の猛者たちと莫大な廃棄物の発生が日本人の生活の何に起因するのか考えないと…。早寝早起き朝ごはん！が心身の健康を作ることの発信を常に行っていくことが大切。
38	家庭・学校・地域連携の推進が一番身近に取り組みやすいと思います。学校給食もたくさん食育に貢献していると思います。広報などにより情報提供を今後もお願いします。
39	岩手はわりと安心な様な気がします。
40	スーパーの商品には、既に腐食しているものもあるのに並べられている。きちんとチェックしてほしい。
41	買い物をするとき、産地は確認します。今は中国産は買わないようにしています。日本産の商品に比べ味が落ちます。又、テレビで見たのですが、農薬をたくさん使用して作物を作っていました。又、モラルの違いもあります。
42	安全安心追及のため過剰包装の傾向が強い。
43	学校給食の安全性、廃棄食品、最近の報道での食品安全。
44	できるだけ地産地消。
45	食育には関心があり、息子、孫たちにもさりげなく食育教育を実践している。1日3回の食事、料理は県内食材・地元食材を使用。安全をめぐる課題(放射性物質・食中毒)が最も気になる。
46	1、イカの塩辛について一般的に市販されている塩辛は、防腐剤等が入っていて本物の塩辛とは似ても似つかない(私は本物の味を知っている)味で全く美味しくなく防腐剤を食べている様なものである。かつて私の伯父は最近トイレに”うじ”がわなくなった。これは防腐剤の為だということを言っていたことを思い出しました。岩手県から防腐剤を追放してはどうでしょうか。 2、公的機関にお願いすることは脳卒中予防のため大々的に減塩と1日350g野菜摂取を奨励すること。
47	県内でも廃棄食品横流しみたいなことがないか。鉱山や産廃からの悪い水が漏れた時の食品や生産物がどうなるか。
48	最近は値段の安さより生産地を見るようになってきた。表示の確認をしよう。
49	中国からの輸入がすごく怖い食べたくない。
50	子供達のアレルギーが多すぎて見てもらえない。野菜嫌いな人が多すぎる。TPP反対！
51	家庭での母親達の食への関心・意識がとても低下していると思うので勉強会など学校でも実践してほしいです。
52	生産物が市場に出る前の検査体制の強化により、一層の安心感につながると思う。
53	消費者は表示してあるものを信じて購入していますので、虚偽だけは避けていただきたいです。
54	岩手県産の物は素晴らしいものばかりです。県民として誇りに思っています。そのため、日本、世界での県産物の価値を積極的に上げてほしいと思っています。
55	企業も行政もチェック体制が形骸化してしまっていることが問題だと思っています。

56	廃棄食品の横流し問題等々、私達は信用信頼して毎日スーパーなど利用していますが他のメーカーさんを疑うわけではないが、疑心暗鬼状態になりそうで怖いです。
57	県産品は安全安心の信頼が厚いので、常に購入するように心がけています。
58	産直を利用していますが、出荷前の農薬検査をどの程度やっているのか疑問に思う事があります。
59	やはり流通経路がしっかりしていないととても不安です。
60	食品表示を信頼し購入している。
61	安い物が悪い訳ではないけど、生活が困窮してくると県産品とかブランド品とかではない食品だけで食事をする事が多くなり、そんな時は大丈夫かしらと思う事もあります。
62	産地や消費期限の偽装がこれ以上起こらないといいと思う。
63	農薬の残留が無いかととても気になります。皮の所に栄養があり、生ゴミを減らす為にも使い切りたいのですが少し不安です。
64	表示や消費期限等、全てを信じて購入している為、廃棄物の再利用や食品事故のニュースを見ると不信感を抱きます。
65	改ざん、偽装、添加物、放射線物質…等がニュースで流れているのを見ると不安になるが、あまり気にしすぎるときりがないので、売られている食品の安全が保たれてると信じ購入している。
66	最近テレビ等で流れている食品の横流しの事例を見ると、何百トンと廃棄食品が有るので消費期限の改善や有効活用が求められると思う。
67	農業現場における高齢化。
68	あまり感じていないし、いちいち吟味して食していない。
69	生産者、生産地のわかるものの購入、地産地消を心がけています。産直コーナーもよく利用しますが、放射性物質の影響が時々不安です。(特にキノコ類)
70	商品を見た時安心して買いたいので、美味しさや色を見る。
71	廃棄ロスも考えて、期限が来る前に値下げをしてなるべく捨てることのないようにしてほしい。(特にコンビニ)
72	食品に関する表示の確認を良くすること。
73	本県においては、偽装表示の例はないと思いますが、よく見ないと例えば米で複数原料米を使用していることが見受けられる。
74	やはり地産地消が一番安心です。
75	現代社会、共働きが多い中、外食する機会も増えてきてメニュー等に材料、調味料、カロリー等も具体的に表示されることを強く望んでいます。岩手県が塩分摂取もフーストという実態も県民一人一人に知ってもらうこと。ベストの県を見習ってほしい。
76	産直などでできるだけ生産者の情報が分かる商品を購入する。
77	スーパーの産直のコーナーなどは、生産者の名前や生産地・顔などをきちんと表示しているので安心して購入できます。作っている人がわかるので食べるときも感謝の気持ちがより強くなります。
78	バランスある食をを考えて、献立を作り体調管理をしている。
79	農産物は生産地などが記載されているので、ある程度情報が発信されていると思うが、加工食品だと加工者の記載のみなので安全に加工されているか疑わしいと感じる時がある。
80	消費者の立場として地産地消を考えて購入しています。毎日食べる物なので値段より安全性を重視して国産を買います。
81	アレルギーなどで食品の成分が気になるので記入していれば親切ですね。
82	安全安心な食品をと地産地消と思うのだが、近年海外からの食品が多い。多額の補助金を充当して作られる県産品(ウニ、アワビ、カニ…)は高価で県民の口には入らず、県外、海外へと出て行く。昔は地元の利でウニ、アワビ、カニ…も多少なりとも口にできたのだが。
83	どんなにいいものを作っても、食品表示の偽造などがあればどうにもならないので心配。
84	放射線量のチェック、品質の向上。

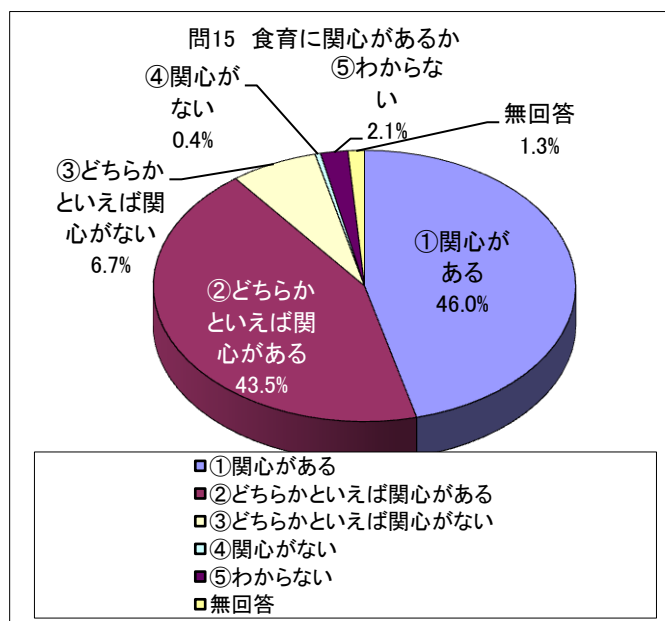
85	新鮮なものを購入するため、製造年月日には注意している。
86	子供達に安全な食べ物をと考えている。
87	食の安全安心については、事件事故が起きたときに大きく報道されるのみで、普段の意識、喚起、高揚策がないように思える。
88	衣食住は生きる為に必須です。又、その1つです。意識改革と指導の強化が絶対です。
89	「いわて国体」で県内外の選手、応援団の方々に岩手の食材(料理)をPRできる良い機会です。
90	食品の偽装が気になる。
91	事業者、生産者を信用することだが、生産物に重い責任を持つこと。
92	時々、傷んだ野菜などが外から見えないように売っているのを買ってしまった時。もっとしっかりと確認してから売ってほしい。
93	添加物が身体に及ぼす影響とか、コンビニ等に食品を納品する場合の基準の不思議(保存温度30°C48h)とても普通日常生活では考えられない保管条件です。これをクリアするには、とんでもなく合成保存料を使うハメになります。
94	業者のモラルが低下していると思う。廃棄商品を横領したり、それとわかって買い取ったり最悪消費者には発覚しないとわからない。
95	中国産の商品(食品)に不安を感じ、手を出さないようにしている(一切購入しない)。
96	賞味期限が短すぎると思う。それによって廃棄処分する食品がかなりある。食べ物に困っている国もあるのに。
97	産地を表示している物を良く買います。手に取って良く見ます。輸入物も買いますが、ちゃんと調理してから食べます。一応関心はあります。
98	安全で生産者の顔が見え、そして自然環境に即した農産物を食卓に上げる努力。
99	野生キノコや山菜など、今でも基準値を超えるようなモノがあるようなので、とても不安です。市場にそのようなモノが出回らないようにお願いします。
100	なるべく家庭で手をかけた食事で、愛情と一緒に栄養も摂ることが一番大事だと思います。そこでその材料となる農畜産物などの安心安全性がその鍵となります。様々な基準を設け食の安全を確保して下さい。
101	偽装だけはやめてもらいたい。何を信じればいいのかわからなくなる。
102	産直などの加工品の使用品目が表示されていないものがありました。これは大丈夫かなと思った。
103	スーパーで、肉類の産地表示が「国産」となっている場合があり、どこのものかはっきりしなくて不安です。
104	「県産豚肉」とあるが本当に県産品だろうか？と時々不安になる。小学生の頃から食育などを通して常に関心を持たせる必要があると思う。
105	隣県における肥料会社の数年に及ぶ偽装表示、又、最近発生した飲食店から廃棄を依頼された産廃業者がその食品をブローカーに横流し、ブローカーは小売店に流し、マーケットに流通していた事件が発生しました。このような悪徳業者は直ちに事業停止を命じて、厳しい態度を行政が示して再発を防いでほしいものです。また、このようなモラルの欠如している人間は、子供の頃からの教育がなっていないと思うので、やはり教育というのが大切な事なのではないかと思っています。
106	廃棄物を販売する等業者が行った場合は、廃業に追い込む様な強い態度を行政は行うべきである。
107	消費者の意識、モラルの低さと無関心(見た目の良さで選んでいる)、食べ残し等の消費の無駄。
108	食育は授業に取り入れてほしい。岩手は減塩運動が遅い。
109	子供がまだ小さいので、産直とかのように生産者の顔が見えると安心できます。
110	スーパーのパートをしていて売れ残りの廃棄分が多くてビックリするし、悲しい。日本人は贅沢と言われるが、これを何とかしたいものだ。値引品はどんどん買っている。
111	つい最近の廃棄物横流しの件など食品関連事業者の意識改革、モラルの向上を切に願う。
112	食品表示は必ず確認しますが、つい安い食材に手がのびることも多く、捨てられるべき食品が流通していたニュースには唖然としました。

113	岩手県南の一関地方が放射性濃度が高いです。ヤマメとか椎茸、そば、山菜、たけのこが出荷止めになるのに食停止がない。
114	戦中派や戦後の困難な時代に生きてきた方々の中には、体に良くないものであっても平気で「食べれるだけで有り難い」といって食する人もいますので、そういう人達にも食の安全安心に興味を持ってほしい。特に年配者や子供達に食の安全安心について周知してもらいたい。
115	産廃業者による廃棄食品の不正転売、考えられない事件が発生。消費者の不安が増している。立入検査の徹底、監視強化策を構ぜられたい。
116	スーパーなどの表示ですが、「国産」という表示をもう少し明確にしてほしい(特に肉)。
117	安全もだけど安さ！
118	行政、農協が中心となり生産者、消費者との交流を求めるように呼びかける。
119	ごまかしなど(日付、内容物)がなくなるように徹底して取り締まってほしい。
120	最近廃棄の物が売られていた(使われていた)というニュースは、知らない所で口にするものなので県内でもしっかり立入検査などして欲しい。
121	産地が記載されていない物もある。
122	安いだけでは信用できないので、高いものとの比較をしています。高いものなりの理由も考えて購入を決めています。
123	廃棄食品横流しのニュースなどを見ると怖いと思います。
124	産直に山菜やキノコを出す時、放射能検査(自主検査)していますが、ずっと(毎年)不検出なのに半減期まで続けなければいけないのは仕方がない？
125	子供が小さいので発がん性物質が怖い。
126	子供が生まれてから食品の生産地を特に気にするようになりました。それまではあまり考えた事もなかったです。
127	先日の報道で見たコンビニから出た回収業者の倫理観の無さ。何で捨てる食品を回して次々と売ることか。バレたから仕方ない！？そういう思考が出来るのか、あきれました。裁判所で裁かれるべき。
128	時々、スーパーでも正しく表示していない野菜がある。(例)しいたけ、原木か菌床か等。販売者の知識不足。
129	海を眺めると色々なゴミ等が流れておりますが、海産物が汚染されていないか不安を感じる事があります。
130	輸入食品の安全性に関心がある。
131	「動物の中で毒を子供に与えるのは人間だけ」とは、ジャン・ポール・ジョー氏(フランスの映画監督)の名言である。添加物まみれの食品を選択する親よりも、それらを市場に投入する企業の方が問題である。添加物まみれの食品を販売することで将来、健康を害するリスクを子供達に背負わせていることを企業はもっと自覚するべきであろう。
132	食品添加物などに対する知識が乏しいと自分で感じているため、わからないことは調べるようにしているが、なかなか難しい。県や市町村などで定期的に勉強会などを開いてもらえたらと思っている。
133	見た目が悪かったり、表示内容に疑問等があれば買わない。
134	購入する時、産地がやはり気になってしまいます…安いからと取ると中国産だったりして、放射能だとか風評だとか言うけど、実際検査とかどうなっているのか分からないだけに不安です。検査なしに流通しているのではとってしまいます。産地だって店舗側でも売るために偽装できるんじゃないかと考えてしまうし。それでも岩手県産の野菜は買います。地物の食材をやっぱり食べたいもの。
135	中国や外国の農薬類が、いかに多いかと言われていますが、それよりも、日本の放射性物質の方が、もっともっと危険だと思いますが、如何でしょうか。

136	<p>買う時は、和牛しか買いません。昨年、遠野市のスーパーで、少し御値打ちな牛肉を購入しました。これは2回目の体験ですが、今までに知っている牛肉というよりはラム肉(羊肉)のようなにおいと味でした。私はスーパーにこれは牛肉ではないと苦情を言いました。でもこれだけではちが明かず、保健所の人に調べてもらいました。結局書類上は問題ないということでした。肉だけではこれは何の肉か判断できないということでした。今後、このスーパーでは牛肉は買いません。魚類については、海の魚では、鮭、鱈、ヒラメ、サンマを食べた後に吐き気を催すことがあります。店に苦情を言うことを控え、我慢しますが、次回からは購入を控えようと思います。自然の動物では、私の住んでいる地域では鹿が急増しています。昨年、我が家の前でシカの交通事故がありました。捕獲もされているようで、最近シカ肉が我が家にも無料で回ってきます。私も昨年の夏、恐る恐る食べてみました。ちゃんと処理されていれば結構おいしかったです。でも保健所では、放射能のことがあるので、許可していないそうです。そんなに問題があるのでしょうか？たくさん出回っているのに疑問を持っています。私は鹿肉より川魚のほうに問題があると思っています。昨年数回川魚を食べましたが、すぐ嘔吐して食べることができませんでした。保健所では川魚は許可しているそうです。私はこれは問題だと思います。食品に興味をもって、もし問題がありそうなものは食べません。行政ももっと、問題のある食品はニュースや新聞などで報道してほしいです。</p>
137	<p>安くおいしく食べたい。</p>
138	<p>現在、管理栄養士を養成している大学で事務として勤務しています。岩手県内には、食に関する大学、短大が多くあります。いろいろな事業に教員や学生と連携してほしいと思います。</p>
139	<p>県内で生産されている食品については、安全安心と感じています。この事に関東地方や海外などに積極的にアピールを増やして行ければよいと思います。</p>
140	<p>安全安心は求めたいが、どうしても購入価格に比重が置かれている現実との関係です。</p>
141	<p>消費者が自由に提言や通信できるためのメールや投書のルートを作っておく。</p>
142	<p>生産者のモラルも大切ではあるが、購入する側も消費期限を選んでとることなどをすると食品ロスに繋がりがねず、買う側の心がけなどでロスを減らすように心がけるべきであろう。</p>

問15 あなたは、食育に関心がありますか。(あてはまるものを1つ選んでください。)

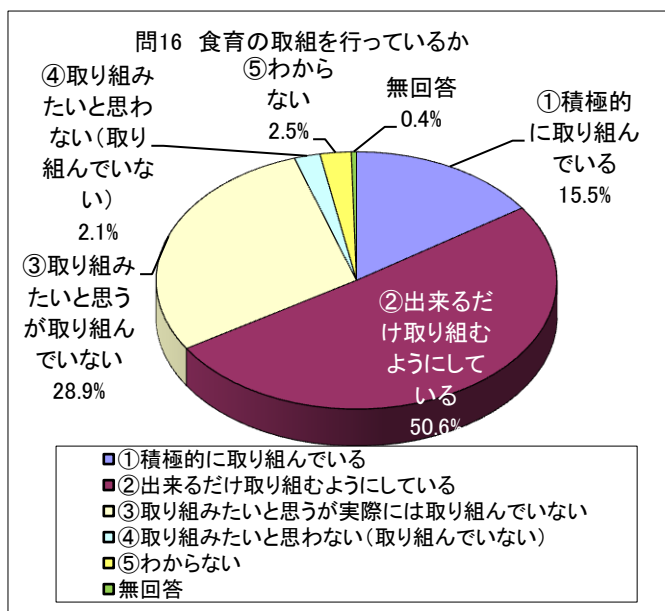
①関心がある	110
②どちらかといえば関心がある	104
③どちらかといえば関心がない	16
④関心がない	1
⑤わからない	5
無回答	3
計	239



食育に関心がある人は全体の9割(89.5%、前回91.2%)であり、ほとんどの人が食育に関心を持っている結果となった。

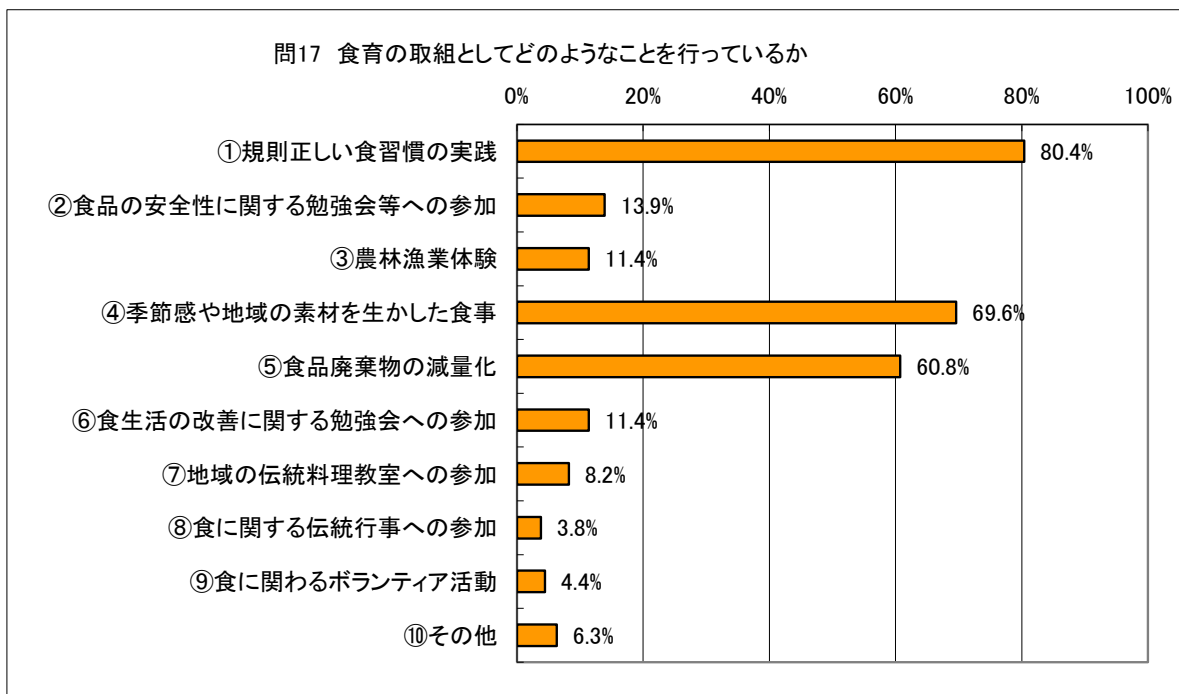
問16 あなたは、食育の取組を行っていますか。(あてはまるものを1つ選んでください。)

①積極的に取り組んでいる	37
②できるだけ取り組むようにしている	121
③取り組みたいと思っているが、実際には取り組んでいない	69
④取り組みたいと思っていないし、取り組んでもいない	5
⑤わからない	6
無回答	1
計	239



食育の取組を行っている人の割合は66.1%(前回59.2%)である。また、取り組みたいと思っているが実際には取り組んでいない人が約3割(28.9%、前回35.2%)に上り、引き続き、食育の重要性について周知し、取組を促すことにより、食育の取組みの更なる拡大が期待できる。

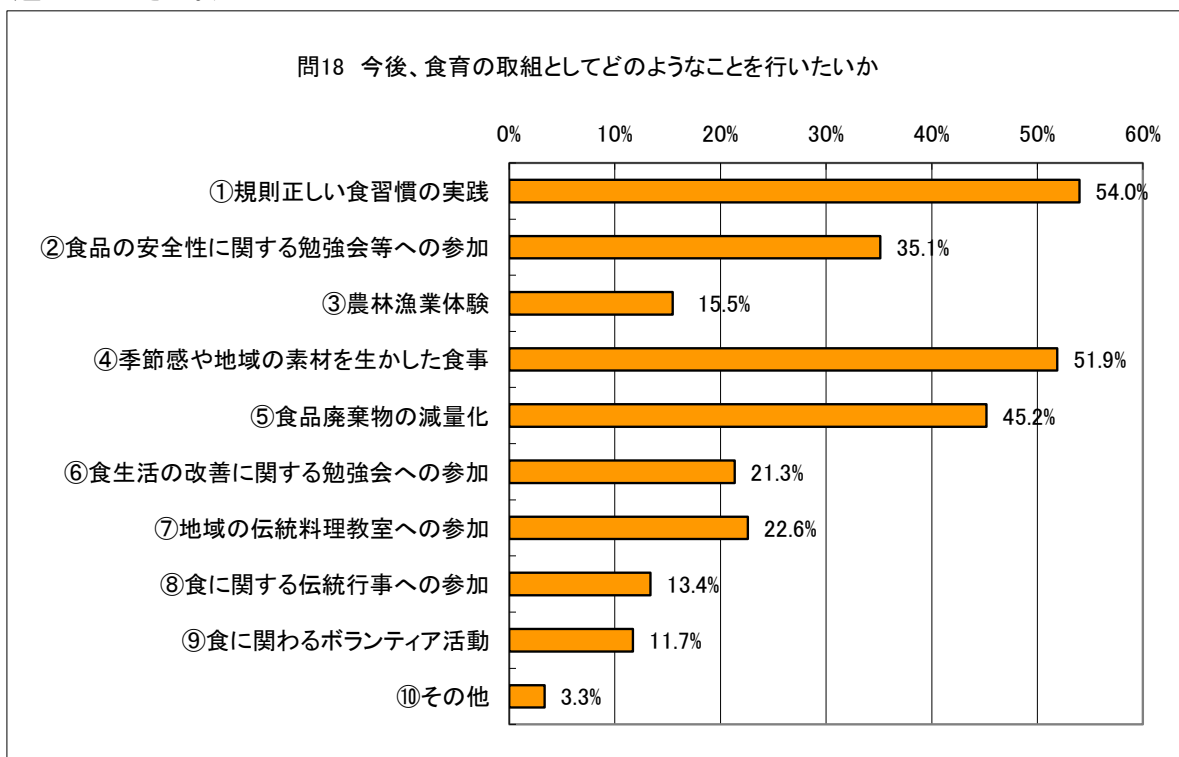
問17 (問16で①又は②を選んだと方のみお答えください。)
 食育の取組としてどのようなことを行っていますか。(あてはまるものを3つまで選んでください。)



※ 「その他」の主なもの: 地域の親子料理教室への参加、子どもと一緒に料理、お年寄りから伝統食の話を聞く、生活クラブへの参加、情報収集、等

食育の取組として行っていることは、①規則正しい食習慣の実践(80.4%、前回49.6%)が最も多く、次いで④季節感や地域の食材を生かした食事(69.6%、前回46.0%)、⑤食品廃棄物の減量化(60.8%、前回33.2%)の順となっている。

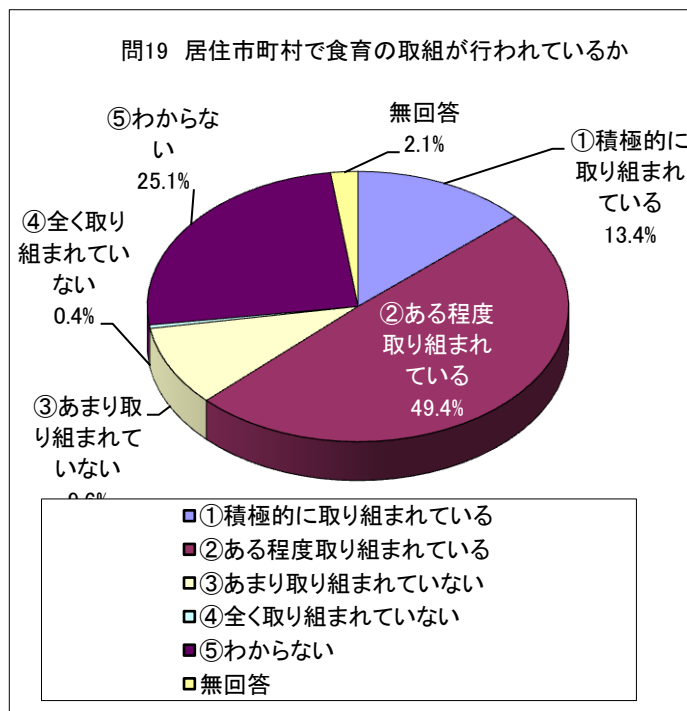
問18 あなたは、今後、食育の取組としてどのようなことを行いたいと思いますか。(あてはまるものを3つまで選んでください。)



今後、食育の取組として行いたいことは、実際に行っている取組での回答と同様に、①規則正しい食生活の実践(54.0%、前回61.6%)が最も多く、次いで④季節感や地域の素材を生かした食事(51.9%、前回51.6%)、⑤食品廃棄物の減量化(45.2%、前回50.0%)の順となっている。

問19 あなたのお住まいの市町村では、食育の取組が行われていますか。(あてはまるものを1つ選んでください。)

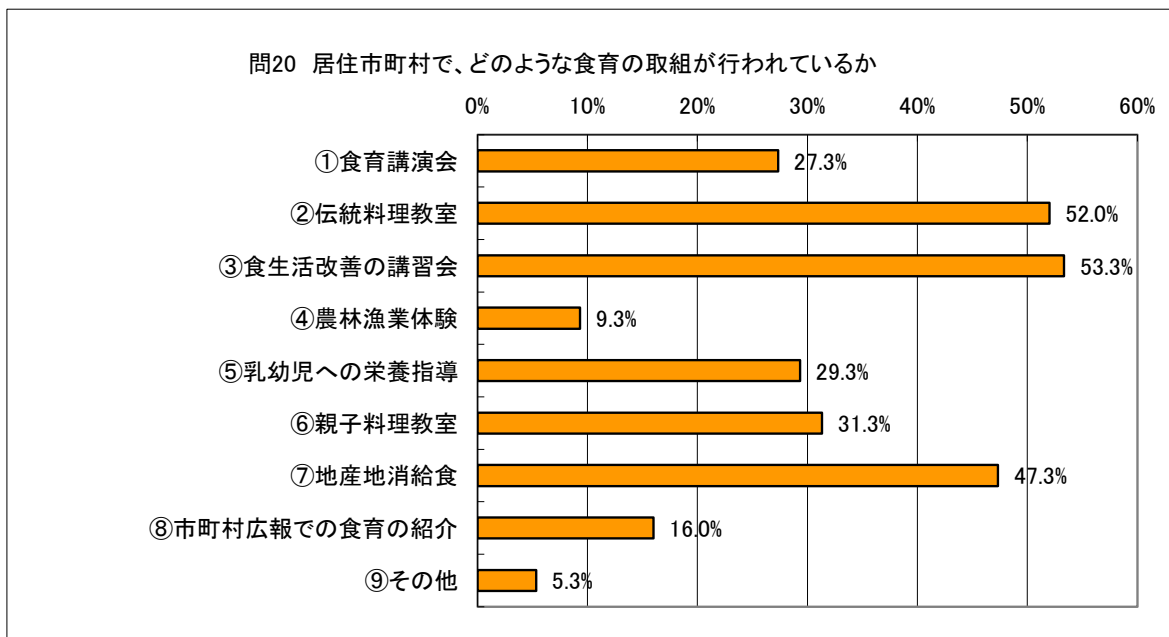
①積極的に取り組まれている	32
②ある程度取り組まれている	118
③あまり取り組まれていない	23
④全く取り組まれていない	1
⑤わからない	60
無回答	5
計	239



居住している市町村で食育の取組が行われているとした割合は62.8%(前回55.6%)である一方、取組の有無が分からないという回答が25.1%(前回27.6%)となっている。

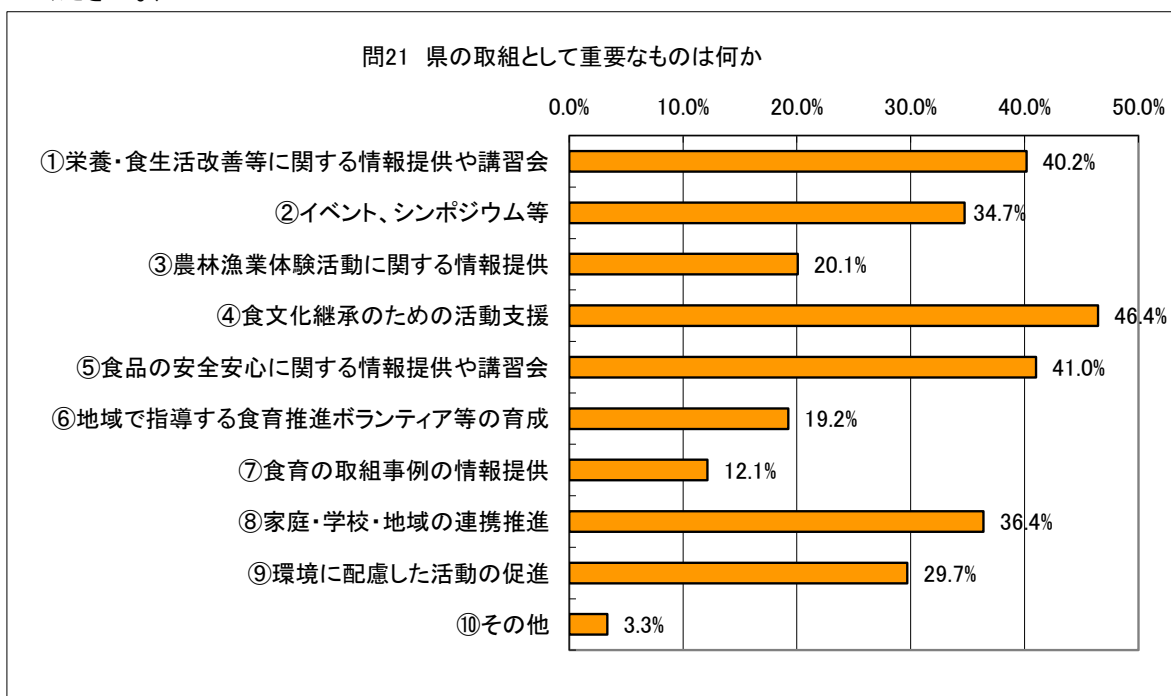
問20 (問19で①又は②を選んだ方のみお答えください。)

あなたのお住まいの市町村では、どのような食育の取組が行われていますか。(あてはまるものを3つまで選んでください。)



居住市町村の食育の取組内容は、③食生活改善の講習会(53.3%、前回34.4%)が最も多く、次いで②伝統料理教室(52.0%、前回26.4%)、⑦地産地消給食(47.3%、前回22.8%)の順となっている。

問21 食育を進めるための「県の取組」として、重要だと思うものは何ですか。(あてはまるものを3つまで選んでください。)



県の取組として重要なものは、④食文化継承のための活動支援(46.4%、前回46.0%)が最も多く、次いで⑤食品の安全安心に関する情報提供や講習会(41.0%、前回40.4%)、①栄養・食生活改善等に関する情報提供や講習会(40.2%、前回41.6%)の順となっている。